

液状化危険度

液状化予測

- ・震度6弱～6強の揺れの場合、市域の低地部では、「液状化危険度が極めて高い」と予測されます。
- ・250mメッシュの中で、条件の悪い地盤にあわせて危険度を予測しています。液状化の危険度が高いからといって、そのメッシュの中で必ず液状化が発生するという意味ではありません。
- ・自然状態の地盤で危険度を予測しています。造成などが行われている場合は、液状化の影響の大きさが変わってくる可能性があります。

液状化とは

- ・地下水が十分に満たされている砂地盤に地震動が作用すると、砂粒子が液体のように動き、地下水に浮かんだ状態になることです。液状化した砂や地下水は、地盤の弱いところから地表に噴き出すことがあります。
- ・液状化した地盤では、その上に建っている建築物や構造物が大きな被害を受けます。
- ・地下埋設管などが大きな被害を受け、マンホールや管自体が地上に浮上してしまうことさえあります。

凡例

- 発生しない
- 危険度大
- ▬ 活断層

活断層とは

- ・約200万年前から現在の間に変位を繰り返してきた形跡があり、今後も活動する可能性のある断層を「活断層」と呼んでいます。市域には、「猿投・境川断層」と呼ばれる「活断層」があります。
- ・活断層は、その存在の確実度がⅠ、Ⅱ、Ⅲの3ランクで区分されており、豊明市域では確実度Ⅱ（活断層と推定される）とされています。
- ・猿投・境川断層の位置は、愛知県活断層調査委員会調査結果より表示しました。